

人との縁に幸せを感じる毎日



「色々な人との一期一会を大切に、よりよいものを作り上げていきたい。」と語る久保さん

演劇ファミリーMyu

久保浩さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.34

春の柔らかな日差しに包まれて、開花を指折り数えて待つ。四季の里の満開の桜の花の下で、楽しいひと時を過ごしてみませんか。今回は、ゴールデンウイークに行われる「ここで逢えたら：VOL3」のバンドメンバーでサックス・フルートを担当する前後地区に住む久保浩さん取材する。

音楽と 出会いに感謝

久保さんがはじめて音楽と出会ったのは、小学2年生の時にピッコロを習い始めたことだった。幼い頃、体が弱

かったという久保さんは、体が丈夫になるためにはじめたという。「初めて買ってもらったピッコロは安物だったが本当に嬉しかった。母親の決断というか、判断に感謝している」と久保さんは話す。楽器の演奏を続けているうちに体も丈夫になり、小学6年生の時からフルート、高校2年生になるとテナーサックスを演奏するようになった。小学6年生には、マーチングバンドにも参加し、パレードをしてきたそうだ。「小さい頃から管楽器に触れ、音楽を選んで本当に幸せだと思う。音楽を選んだから今があると思う」と話してくれた。

演歌・ジャズ・ロック・クラシック・マーチングと幅広い音楽を愛する久保さんは美野里に住んで10年になる。東京から緑と土を求めてやって

来たそうだ。縁があつて前後地区に住み、休日には9歳になるお嬢さんと一緒に料理をしたり、クッキーを焼いたり。と子煩悩なパパでもある。週末の一日は家族で様々なところへ足を運んでいるそうだ。

久保さんは週3回、個人レッスンをしており、将来はドラムなどもある個人練習場を作るのが夢だ。また、施設や病院への慰問や小・中学生とのコラボレーション、将来的には音楽を始めた人のための本を出版・・・等、頭の中には10年分位の計画が詰まっているという。「病弱だった子どもの頃、全部自分の生活を捨てて、息子のために病気と戦ってくれた母は戦友だと思う。その母のために叙情歌をフルートで演奏してCDを一枚作りたいと思う。それが良き理解者である母への恩返しだと思う」と話す。久保さんのステージを聴いたお母さんからは「30年たつて音が深くなつたね」と言われたのが嬉しかったという。

今回、久保さんが出演する『ここで逢えたら・・・』は、芝居と歌と音楽で綴るエン

ターテイメント。ゼロから創り上げていくことにおもしろさを感じるという。「魅力的なメンバーと自分が好む音楽以外のものを経験できることは、いい刺激となっている。」と久保さん。当然、公演を創り上げていく上で意見がぶつかり合うこともあるが、段々とみんなの想いが詰まったものになっていくそうだ。「メロディーはトッピングで、大切なのはリズムセクション。あとはバランスを考え、どう練り上げていくか・・・ここがいつも悩むところ。」と久保さんは話す。そんな久保さんは、「この世は縁で出来ている。全ての出来事をプラスで考えることが出来れば必ず上手くいくはず。どんなに不可能に思えることでも可能性は常にある。」と話してくれた。

この公演は、久保さんにとって「バンドマンとしてもこれ以上ない幸せな場所」だという。皆さんも、幸せのヒミツ“を見つけないで「ここで逢えたら：VOL3」へ是非お越しください。

(藤田佐知子)